

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第 37 回大会（甲府）報告

(1) 日本藻類学会第 37 回大会（甲府）

上記大会を 2013 年 3 月 27 日（水）～29 日（金）に山梨大学甲府西キャンパスにて開催した。

大会 1 日目は、午後にワークショップ「藻類イラスト講座」（講師：中山剛氏、内田博子氏）、および、編集委員会・評議員会を行った。2 日目は、口頭発表（2 会場）、ポスター発表（奇数番号）、総会、懇親会を行った。3 日目は、口頭発表（2 会場）、ポスター発表（偶数番号）、エクスカッションを行った。

(2) 編集委員会・評議員会

大会 1 日目（3 月 27 日）15:00 より山梨大学甲府西キャンパス L 号館にて、英文誌および和文誌の合同編集委員会を行った。

英文誌については、峯一朗英文誌編集長から「Phycological Research」の 2012 年度、2013 年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。2012 年度は総頁数 325 頁、掲載論文数 31 編であったこと、2013 年度については 61 巻 1 号に 10 編が掲載され、2 号に 10 編の掲載予定で、61 巻 3 号以降の受理論文数は 3 月 25 日現在 8 編であることが報告された。電子システムの運用状況、編集にかかる日数、2011 年までのインパクトファクターの推移、編集体制に関して報告があった。編集方針、編集長の交代（次期編集長は神谷充伸氏、2014 年度より）について審議が行われた。Wiley-Blackwell 社の荒生由香里氏から 2012 年度の英文誌出版状況・成果等をまとめた年次報告書についての説明があった。

和文誌については畠田智和文誌編集委員長より「藻類」60 巻および 61 巻の編集状況に関する報告があった。60 巻（2012 年）には 8 編の原著論文のほか、60 周年記念特集記事、60 周年記念藻学者年表（巻頭図録）、学会講演要旨や企画記事等が掲載され、総頁数は 181 頁であったこと、および 60 周年記念 DVD と藻学者年表クリアファイルを挟み込みで配布したことの報告があった。61 巻の刊行計画、編集方針について説明があり、審議が行われた。

評議員会は編集委員会終了後、同会場にて 16:30 より行われた。2013 年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議が行われた。内容に関しては総会の項を参照されたい。

(3) 2013 年度総会

大会 2 日目（3 月 28 日）16:00 より山梨大学甲府西キャンパス M 号館にて、総会を行った。田中次郎学会会長と御園生拓大会会長の挨拶の後、坂西芳彦氏（日本海区水産研究所）を議長に選出し、議事に入った。

【報告事項】

・庶務関係

(1) 会員状況（2013 年 2 月 28 日現在）：名誉会員 4 名、普通会員 975 名（国内・一般 625 名、国内・学生 183 名、外国 167 名）、団体会員 44 名、賛助会員 9 名、「藻類」国内購読 15 件（5 月 29 日現在）。

(2) 2012 年度事業報告：1) 日本藻類学会第 36 回大会・評議員会・総会（北海道大学学術交流会館、2012 年 7 月 13～15 日）の開催、2) 和文誌「藻類」60 巻 1～3 号の発行、3) 英文誌「Phycological Research」60 巻 1～4 号の発行（1, 4, 7, 10 月発行）、4) 第 15 回日本藻類学会論文賞の授与と第 16 回日本藻類学会論文賞の選考、5) 第 8 回日本藻類学会研究奨励賞の選考、授与と第 9 回日本藻類学会研究奨励賞の募集、6) 日本藻類学会創立 60 周年記念事業として藻類画像 DVD と日本藻学者年表（ポスターとクリアファイル）の制作と学会員への配布、および、学会ロゴマークの制定、7) 日本藻類学会創立 60 周年記念講演「日本藻類学会 60 年（吉田忠生氏）」（2012 年 7 月 14 日、北海道大学学術交流会館講堂）の開催、8) 公開講演会「コンブとマリモ - 北海道の藻類の話」（2012 年 7 月 15 日、北海道大学学術交流会館講堂）の開催、「北海道におけるコンブ類研究（四ツ倉典滋氏）」、「昆布のうま味 - 味わって食べることの意義（澤晶子氏）」、「阿寒湖におけるマリモの多様な生態と生育環境（若菜勇氏）」、9) 藻類学ワークショップの開催、ワークショップ I 「藻類の形態観察に関わる技術講習（講義編）」（2012 年 7 月 13 日、北海道大学理学部 5 号館）、および、ワークショップ II 「藻類の形態観察に関わる技術講習～急速凍結置換法とトモグラフィー解析～（実践編）」（2012 年 7 月 16～18 日、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター室蘭臨海実験所）の開催、10) 日本藻類学会会長選挙および評議員選挙の実施、11) 和文誌「藻類」バックナンバーの PDF 化、12) 電子メールによる学会連絡の配信、13) 9th Asia-Pacific Marine Biotechnology Conference (APMBC2012) および第 15 回マリンバイオテクノロジー学会大会（2012 年 7 月 13～16 日、高知市文化プラザ）の協賛、14) 北海道大学総合博物館企画展示（2012 年 7～9 月、北大総合博物館）の共催。

(3) 英文誌「Phycological Research」のオープンアクセス：英文誌「Phycological Research」において、Wiley-Blackwell 社が提供する「著者の費用負担で論文をオープンアクセスにする」オプションについて、2013 年度第 1 回持ち回り評議員会の結果、採用することに決定した。

(4) 自然史学会連合総会：自然史学会連合総会と自然史学会連合の書籍出版計画に関する検討会が 2012 年 12 月 22 日（土）に東京大学総合研究博物館ミュージアムホールにて開催された（北山太樹氏が出席）。さらに上記検討会を受けて、自然史学会連合の書籍検討会が 2013 年 3 月 17 日（日）に学研本社ビルにて開催された（編集委員として北山太樹氏が出席）。

(5) 日本分類学会連合：日本分類学会連合第 12 回総会およびシンポジウムが 2013 年 1 月 12 日に国立科学博物館上野本館講堂にて開催された（田中次郎氏と鈴木秀和氏が出席）。

(6) 旧水研連加盟学会および関連学会会長懇談会と水産・海洋科学研究連絡協議会（仮称）：第 1 回懇談会が 2012 年 10 月 24 日に（田中次郎氏が出席）、第 2 回懇談会が 2012 年 12 月

表 1. 2012 年度一般会計決算 (2012.1.1-2012.12.31)

取 入 (円)			支 出 (円)		
会 費		5,749,584	和文誌経費		1,636,631
普通 (国内・一般)	3,890,334		英文誌経費		4,696,450
普通 (国内・学生)	410,000		編集費		64,390
外国会員	385,000		和文誌編集補助費	64,390	
団体会員	854,250		英文誌編集補助費	0	
賛助会員	210,000		庶務費		415,406
和文誌関係収入		603,114	事務用品費	26,643	
定期購読	166,050		会議費	59,505	
バックナンバー	12,750		通信印刷費	265,768	
別刷・超過頁代	284,000		諸雑費	52,390	
広告代	140,000		和文誌 PDF 化作業費	11,100	
著作権許諾料金	314		幹事旅費補助		3,920
英文誌関係収入		1,061,004	大会補助費		120,000
掲載料・超過頁代	826,500		自然史学会連合分担金		20,000
版權還付金	234,504		分類学会連合分担金		10,000
受取利息		1,462	60 周年記念事業		202,400
寄付金		417,433	レンタルサーバー代		9,600
小 計		7,832,597	小 計		7,178,797
前年度繰越金		12,684,014	次年度繰越金		13,337,814
合 計		20,516,611	合 計		20,516,611

表 2. 2012 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算 (2012.1.1-2012.12.31)

取 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	普通預金 12	論文賞用雑費	31,300
	定期預金 504		
小 計	516		
前年度繰越金	2,570,197	次年度繰越金	2,539,413
合 計	2,570,713	合 計	2,570,713

表 3. 2012 年度研究奨励賞事業特別基金会計決算 (2012.1.1-2012.12.31)

取 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	普通預金 17	奨励賞賞金	100,000
	定期預金 282		
小 計	299		
寄付金	1,331,009		
前年度繰越金	1,509,745	次年度繰越金	2,741,053
合 計	2,841,053	合 計	2,841,053

日本藻類学会 2012 年度決算書に対し記名捺印する

2013 年 3 月 14 日

2012 年度 会 長 堀口 健雄 印

2012 年度 会計幹事 阿部 剛史 印

決算書が適正であることを認める

2013 年 3 月 14 日

2012 年度 会計監事 工藤 利彦 印

2012 年度 会計監事 四ツ倉 典滋 印

21 日に (鈴木秀和氏が出席), 第 1 回水産・海洋科学研究連絡協議会 (仮称, 議長: 渡部終五・北里大学) が 2013 年 2 月 27 日に (欠席), 東京海洋大学品川キャンパスにて開催され, 本学会はオブザーバーとして出席した。

・会計関係

(1) 2013 年 2 月 28 日現在の 2012 年度会費納入率 (雑誌発送会員を対象) は, 普通会員 (国内・一般) 95%, 普通会員 (国内・学生) 81%, 普通会員 (外国) 76%, 賛助会員 63%, 団体会員 55%であった。

(2) 2012 年度一般会計決算等, その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

・編集関係

(1) 2012 年度に発行した英文誌「Phycological Research」60 巻 1～4 号は, 総頁数は 325 頁, 掲載論文数 31 編であった。

(2) 2012 年度に発行した和文誌「藻類」60 巻 1～3 号は, 総頁数は 181 頁, 掲載論文数 8 編であった。

これらに関連した詳細については, 前述の編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

・会計関係

(1) 2012 年度一般会計決算報告および同監査報告 (会計監事: 工藤利彦氏, 四ツ倉典滋氏) は表 1 のとおり承認された。

(2) 2012 年度山田幸男博士記念事業特別基金会計の決算報告および同監査報告は表 2 のとおり承認された。

(3) 2012 年度研究奨励賞事業特別基金会計の決算報告および同監査報告は表 3 のとおり承認された。

(4) 2012 年度一般会計, 山田幸男博士記念事業特別基金会計, および研究奨励賞事業特別基金会計の予算は表 4, 表 5 および

表6のとおり承認された。

・庶務関係

2013年度事業計画として以下の事項が承認された：1) 日本藻類学会第37回大会・評議員会・総会（山梨大学甲府西キャンパス，2013年3月27～29日）の開催，2) 和文誌「藻類」61巻1～3号の発行，3) 英文誌「Phycological Research」61巻1～4号の発行（1，4，7，10月発行），4) 第16回日本藻類学会論文賞の授与と第17回日本藻類学会論文賞の選考（12月），5) 第9回日本藻類学会研究奨励賞の選考，授与と第10回日本藻類学会研究奨励賞の募集，6) 和文誌「藻類」PDFの学会HP上への掲載，7) 藻類学ワークショップ「藻類イラスト講座」（2013年3月27日（水），山梨大学甲府西キャンパスL号館）の開催，8) 学会連絡メール配信。

・その他

(1) 2013-2014年度の会計監事として，倉島彰氏（三重大学）と坂西芳彦氏（日本海区水産研究所）が承認された。

(2) 日本藻類学会第39回大会（2015年）の開催地を高知大学（高知）とすることが承認された。

(3) 水産・海洋科学研究連絡協議会（仮称）への加盟が承認された。

〔日本藻類学会論文賞授与〕

第16回（2012年）日本藻類学会論文賞受賞者の発表および授与が行われた。これは2012年に発行された英文誌

「Phycological Research」vol.60 (1)-(4)の中から，規定に従い審査員の投票によって選ばれ，持ち回り合同編集委員会および評議員会です承されたものである。今回は下記の論文が選ばれ，論文の著者に賞状および記念品が授与された。

Yu-ichiro Hayakawa, Taku Ogawa, Shinya Yoshikawa, Kaori Ohki and Mitsunobu Kamiya. Genetic and ecophysiological diversity of *Cladophora* (Cladophorales, Ulvophyceae) in various salinity regimes. *Phycological Research* 60 (2): 86-97.

〔日本藻類学会研究奨励賞授与〕

第9回（2013年）日本藻類学会研究奨励賞の発表と授与が行われた。同賞は藻類学及びその関連分野において優れた研究成果をあげた若手研究者を表彰するものであり，推薦委員会で授賞候補者が選ばれた後，持ち回り評議員会です承されたものである。今回は山口愛果氏（沖縄科学技術大学院大学，従属栄養性有殻渦鞭毛藻類の系統分類学的研究）が選ばれ，賞状および副賞（賞金10万円）が授与された。

2. 2013年度日本藻類学会第1回持ち回り評議員会

第1回持ち回り評議員会（2013年1月30日～2月15日）を開催し，英文誌「Phycological Research」において，Wiley-Blackwell社が提供する「著者の費用負担で論文をオープンアクセスにする」オプションを採用することの可否を審議した。その結果，国内評議員16名のうち8名から回答があり，回答者全員の賛成により，審議事項が承認された。

表4. 2013年度一般会計予算（2013.1.1-2013.12.31）

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	5,364,950	和文誌経費	1,600,000
普通（国内・一般）	3,504,000	英文誌経費	5,000,000
普通（国内・学生）	0	編集費	300,000
外国会員	0	和文誌編集補助費	200,000
団体会員	880,000	英文誌編集補助費	100,000
賛助会員	240,000	庶務費	397,000
和文誌関係収入	489,250	事務用品費	30,000
定期購読	155,250	会議費	60,000
バックナンバー	3,000	通信印刷費	300,000
別刷・超過頁代	210,000	諸雑費	7,000
広告代	120,000	幹事旅費補助	40,000
著作権許諾料金	1,000	大会補助費	120,000
英文誌関係収入	1,310,000	自然史学会連合分担金	20,000
超過頁代・掲載料	1,050,000	分類学会連合分担金	10,000
版権還付金	260,000	レンタルサーバー代	6,800
受取利息	1,000		
小 計	7,165,200	小 計	7,493,800
前年度繰越金	13,337,814	次年度繰越金	13,009,214
合 計	20,503,014	合 計	20,503,014

表5. 2013年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算（2013.1.1-2013.12.31）

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	200	論文賞用雑費	24,000
前年度繰越金	2,539,513	次年度繰越金	2,515,713
合 計	2,539,713	合 計	2,539,713

表6. 2013年度研究奨励賞事業特別基金会計予算（2013.1.1-2013.12.31）

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	200	奨励賞賞金	100,000
前年度繰越金	2,741,115	次年度繰越金	2,641,315
合 計	2,741,315	合 計	2,741,315

会 員 異 動

新入会	機関名または氏名	所属機関または自宅住所
個人会員		

所属変更	氏名	所属機関
個人会員		



海藻標本採集者列伝

今年から、生物研究社（港区）が隔月発行する「海洋と生物」で「海藻標本採集者列伝」という連載を始めました。第1回（2月号）が岡村金太郎、第2回（4月号）が遠藤吉三郎、第3回（6月号）が宮部金吾です。次を誰にするか悩んでいます。（北山）



岡村金太郎
(1867—1935)



遠藤吉三郎
(1874—1921)



宮部金吾
(1860—1951)

学会・シンポジウム情報

2013年7月21日(日)～25日(木)

5th Congress of European Microbiologists (FEMS 2013) (Leipzig, Germany) [<http://www.brphycsoc.org/meetings.lasso>]

2013年8月4日(日)～10日(土)

10th International Phycological Congress & 2013 Phycological Society of America Annual Meeting (Florida, USA) [<http://www.intphycsoc.org/congresses.php>]

2013年8月28日(水)～31日(土)

日本進化学会第15回筑波大会(筑波大学, 筑波) [<http://sesj.kenkyuukai.jp/special/?id=1426>]

2013年9月13日(金)～15日(日)

日本植物学会第77回大会(北海道大学, 札幌) [<http://www.knt.co.jp/ec/2013/bsj77/>]

2013年9月19日(木)～22日(日)

平成25年度日本水産学会秋季大会(三重大学, 津) [<http://www.jsfs.jp/>]

2013年9月23日(月)～25日(水)

BIT's 2nd Annual International Congress of Marine Algae (AICMA 2013) (Hangzhou, China) [<http://www.bitconferences.com/aica2013/>]

2013年11月8日(金)～10日(日)

第46回日本原生動物学会大会(広島大学東広島キャンパス) [<http://protozoology.jp/>]

2013年10月11日(金)～20日(日)

North Pacific Marine Science Organization (PICES) Annual Meeting (Nanaimo, British Columbia, Canada) [<http://www.pices.int/meetings/annual/PICES-2013/2013-background.aspx>]

2013年11月9日(土)

藻類談話会(奈良女子大学理学系, 奈良) [<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/danwakai/index.html>] [本誌案内参照]

2013年12月3日(火)～4日(木)

7th International Algae Congress 2013 (Hanbrug, Germany) [<http://www.algaecongress.com/>]

2014年3月14日(金)～18日(火)

第61回日本生態学会広島大会(広島国際会議場, 広島) [<http://www.esj.ne.jp/esj/>]

2014年3月14日(金)～16日(日)

日本藻類学会第38回大会(東邦大学習志野キャンパス, 船橋)

2014年3月27日(木)～31日(月)

平成26年度日本水産学会春季大会(北海道大学水産学部, 函館) [<http://www.jsfs.jp/>]

2014年10月27日(月)～31日(金)

16th International Conference on Harmful Algae (ICHA) (Wellington, New Zealand) [<http://www.icha2014nz.com/>]

2013年度藻類談話会のお知らせ

「藻類談話会」は藻類を研究材料とする幅広い分野の研究者の集まりで、西日本を中心に講演会や研究交流を行っています。これまでの談話会の講演内容は、藻類談話会ホームページ (<http://www.research.kobe-u.ac.jp/rcis-kurcis/danwakai/index.html>) でご覧いただけます。今年度は以下の講演を企画しています。ふるってご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時: 2013年11月9日(土) 13:00-17:00

場所: 奈良女子大学理学系 A 棟二階 A201 教室(奈良市北魚屋西町)

講演予定(敬称略)

山口愛果(神戸大・内海域): 従属栄養性渦鞭毛藻類の多様性と系統(仮題)

神川龍馬(京大院・地球環境学): "王道" から外れた葉緑体進化: 渦鞭毛藻類や珪藻類を例に

林八寿子(新潟大・理): 緑藻におけるマイクロボディの機能形態学的解析(仮題)

奥田一雄(高知大・理): ミドリゲ目多核緑藻の形態形成について

野口哲子(奈良女大・理): 微細緑藻 *Botryococcus braunii* の炭化水素生産・分泌・蓄積

参加費: 300 円。談話会終了後、文学系 S 棟一階ラウンジで懇親会を行います(会費: 一般 4,000 円, 学生 2,000 円)。談話会および懇親会の参加希望者は 10 月 30 日(水)までに電子メールかファックスで下記の宛先へお申し込みください(当日参加も可)。

会場への交通: 近鉄奈良駅(1 番出口) から北へ歩き、正門より大学構内へお入りください(土曜日は南門閉鎖、徒歩約 10 分)。

アクセスマップ <http://www.nara-wu.ac.jp/map/accessmap.html>
キャンパスマップ <http://www.nara-wu.ac.jp/campus.html>

参加申込み・問い合わせ先

京都大学大学院人間・環境学研究科 幡野恭子

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

FAX: 075-753-6694 e-mail: sourui_danwakai@yahoo.co.jp